

大銀杏

第52号
令和5(2023)年
10月28日
藤嶺学園藤沢
中学校・高等学校
新聞部
(高校)
井上晴道 井上晃喜
櫻山翔太 荒嶋航成
高橋 新 水野 真
野田 諒 細貝 陽
田中湧大 植竹準也
経澤悠希 稲生海風
川村一健 高橋航之介
古谷貴一 長谷川望人
(中学校)
池田晃太郎 湖山武司
村瀬凜 石崎航成
題字 東山右徹先生

仲間とともに沖縄へ高2研修旅行

五感で知った文化と歴史

高2生は10月10日から10月14日の5日間、四国、九州、沖縄で研修旅行を行った。私が参加した沖縄の模様をレポートする(写真左「私達を迎えた沖縄の海」)。

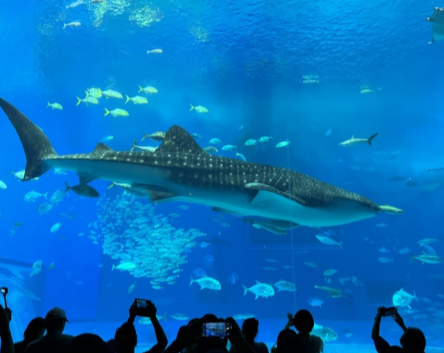
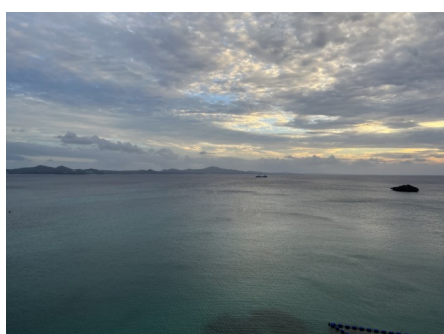
沖縄は日本の南端に位置する。沖縄本島、数々の島は、絶妙な自然の美しさと独特の文化、そして深い歴史が織り成す宝石のような地である。私たちの修学旅行(研修)では、その魅力を多角的に体験することとなった。

初日 平和を考える

旅の初日、沖縄県平和祈念資料館を訪れた。この場所は沖縄戦の惨状や戦後の再建を伝える重要な施設である。壁一面に名前が刻まれた慰霊の碑の前に立つと、時間が止まったような感覚に襲われる。私たちは歴史の重みと平和の価値を改めて認識することとなった。

2日目 自然を体験

2日目には、ホテルのプライベートビーチでのアクティビティが行われた。バナナボート、シュノーケリング



帰りの機内から撮影(首都圏上空)

3日目 文化を体感

3日目、私たちは琉球村を訪れた(写真下)。伝統的な建物や工芸品、音楽やダンスのパフォーマンスなど、沖縄の文化を五感で感じる事ができる場所だ。ブレスレット作りのワークショップでは、沖縄の伝統的な模様や色を取り入れたオリジナルのアクセサリを作成した。昼食時にはタコライスを食べた。スパイシーな味付けとボリューム感、エネルギーを充電するのにぴったりだった。



4日目 街歩き

4日目の国際通りで

は、再集合まで自由に行動した。お土産屋さんや地元のカフェ、レストランを巡りながら、沖縄の都会的な雰囲気と地元の人々の暖かさを感ずることができた。

この沖縄での研修を通しての修学旅行は、私たちにとても多くの学びと感動をもたらすものであった。沖縄の魅力が多角的に体験し、その深さと広がりを感じることができたのだ。

帰りの機内から見た大都市のビル群の多さに、沖縄との違いを実感し、自然の有難さを感じた。【植竹】

中学生徒会球技大会1年1組3冠輝く

10月13日、中学生徒会念願の球技大会が行われた。種目は、サッカー、バスケットボール、卓球で、それぞれで競技ルールが設定されたが、全員が試合に出場するという共通ルールもあった。ほとんどの生徒が試合に白熱していた。

温かさが残る秋空の下、クラスの仲間と一緒に楽しく過ごし、結果は下のようなものであったが、1年生は1組が3冠に輝いた。2年生はそれぞれの種目で各クラスが優勝に輝いた。3年生は2組が2冠に輝いた。3年サツ



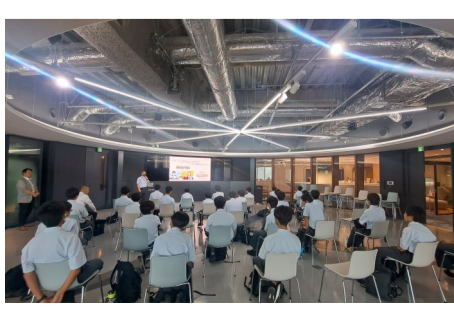
中3サッカー	優勝1組
卓球	優勝2組
中2サッカー	優勝3組
バスケット	優勝1組
卓球	優勝2組
中1サッカー	優勝1組
バスケット	優勝1組
卓球	優勝1組

中1生総合学習 横浜を自主研修

9月22日、若干曇りの日に、僕ら中1生は、桜木町駅前に集まった。今日は学年で横浜を班行動して自主研修する日だ。この日のために計画を決めていたため、当日は素早く行動できた。

まず、僕らは京セラみなとみらいりサーチセンターに行ってきた。「京セラとは、京都市伏見区に本社を置く電子部品、宝飾、医療用製品などを製造する大手電子部品・電気機器メーカーである。」と説明を聞き知りました。(この文はネットで調べ確認して書きました。)

実際に新しい技術、



製品写真上も体験しましたが、それは、他の施設の見学とともに次号でお伝えします。一番印象に残ったのは、ドラマの舞台写真上にもなったフロアで、小雨を理由に仲間と一緒にお弁当を取らせて頂きとても美味しかったことだ。【村瀬】

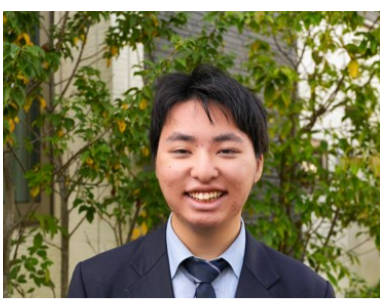
遊行寺 伝統文化体験&アキバ盆踊り

9月30日、清浄光寺(遊行寺)にてコスプレをした人々やDJによるパフォーマンスが行われた(市民祭り会場)。10時から浮世絵すりや片瀬コマ体験、屋台など企画されていた。

16時に取材をするときに50を超えるコスプレヤーが音楽を楽しんでいた。フリーザさんが印象的であった。18時半頃には昼間より多い地域の方で大盛況であった。【石崎】



製品写真上も体験しましたが、それは、他の施設の見学とともに次号でお伝えします。一番印象に残ったのは、ドラマの舞台写真上にもなったフロアで、小雨を理由に仲間と一緒にお弁当を取らせて頂きとても美味しかったことだ。【村瀬】



区画	食品企画名	団体名	品目
33	喰らえ! チュロス!!	バスケット部	チュロス
34	アゲアゲパスタ	1F	パスタ揚げ
35	焼いとります!!	高校タッチフットボール部	焼き鳥
36	炒麺	PTA	炒麺
37	飴りカンドリーム	2D	フルーツ飴(ぶどう、みかん、いちごORりんご)
38	かけるもち	1C	わらび餅ドリンク
39	チュロス	2F	チュロス
40	俺らのホットドック ver2023	2C	ホットドック
41	JAGAにーs	2B	フライドポテト
43	やきとり	2E	やきとり
44	ワクワクふる一つ屋さん	1E	ぶどう飴・チョコバナナ
45	美味しく焼いちゃったフランクフルト	1A	フランクフルト
46	アニキのフワフワドーナツ♡	硬式野球(3年)	ドーナツ
18	Cafe Wisteria	有志	パンケーキ
23	わっふるBIGが一番	2A	ワッフル

食品:16団体 中高展示アトラクション:28団体 卒業生・PTA・教員:5団体



製品写真上も体験しましたが、それは、他の施設の見学とともに次号でお伝えします。一番印象に残ったのは、ドラマの舞台写真上にもなったフロアで、小雨を理由に仲間と一緒にお弁当を取らせて頂きとても美味しかったことだ。【村瀬】

第12回体育祭雨天により「仮装」のみ開催 中高生4色シャツで鑑賞会場盛り上がる

6月12日、待ちに待った体育祭の日であったが、午前中の雨が降り止まず、競技は中止となった。しかしながら、仮装大会が行われた。中高生が、卒業生の方々に協力して制作した4色のシャツを着て着席すると、一体感が生まれ、写真上。その中で登場する高校生、中学生の仮装は普段とは違う装いで場内は大いに盛り上がった（写真左下）。競技種目も別日に行われた。【川村】



令和5年度教育実習生からメッセージ

外山隆太先生

まずは、多くの生徒の方々が入学してくれてありがとうございます。多くの生徒と色々な場面で多々コミュニケーションをとることができ、多くの生徒の考えや意見を聞いて良かったです。ここで、最後に在校生へ残しておきたいことが2つあります。

安齋龍成先生

1つ目は、友人を大切にしてください。今私も大学生ですが、藤嶺で仲良く遊んだり、相談をしても遊んだり、相談を聞いてくれてありがとうございます。なで、藤嶺で仲良く遊んだり、相談を聞いてくれてありがとうございます。

2つ目は、自分のやりたい事を一生懸命やってみてください。人生の中で1回しかない機会です。ぜひ、みなさんの頑張りを応援させていただきます。

原卓也先生

皆さん、今自分が熱中していることはありますか。読書、ゲーム、スポーツ、部活動など、様々な答えが返ってくると思います。私が藤嶺生だったころは、ずっとゲームをやっていました。

吉田伊織先生

皆さん、今自分が熱中していることはありますか。読書、ゲーム、スポーツ、部活動など、様々な答えが返ってくると思います。私が藤嶺生だったころは、ずっとゲームをやっていました。

体育祭「競技」も別日に実施



熱戦繰り広げる

令和5年度の体育祭は雨天順延の末、仮装大会のみが講堂で行われ、別日に開催が決まりました。

6月16日晴天の下、開会式が行われた（写真上「竹中実行委員長 開会宣言」）。全校クラスがそれぞれ4色に分かれ、各競技、熱戦が繰り広げられた（写真左）。

盤に一步抜け出すのが、最終種目の色別対抗リレーの直前に雨が激しく降り出し最終種目の結果が加算できない中、体育祭は終了した。残念であったが、勝利を収めた中高で協力して実施できた体育祭に、豪雨の後の晴れやかな空と同じような清々しさが体育祭後にはあった。【石崎川村】

大学取材 デザイン性が感じられた建築学科

昨年、高校2年夏に私は東京都立大学のオープンキャンパスに参加した。時は経っても実際に大学に行ってみると、大学の雰囲気を感じることができた。自分の将来の活動を感じながら、学生数や設備の規模の大きさに驚かされることもあった。私は今回中央大学の理工学部と東京都市大学の建築都市デザイン学部の2大学のオープンキャンパスに行った。



中央大学理工学部は後楽園にキャンパスを構え、色々の大学を調べてみた中でも比較的アクセスがよい。学校の知名度はむしろ低いこと、大学内には隣接する一般企業のビルに負けず、デザイン性が感じられた建築学科を取らない大きな施設が立ち並んでいた。大学内で印象的だったところを一つ上げると売店で、文房具屋さん、コンビニと参考書売り場がすべて合体したようなところで非常に利便性が高い様子であった。

高一国際交流「トロワ・マシ文化学んだ」

高一生（現高二生）25名は、3月22日から4月4日の14日間、ニュージーランド（NZ）で語学研修を行った。その模様をレポートする。

初日、成田空港に8時に集合し、シンガポール航空でシンガポール・チャンギ空港を経由してNZ・オークランドに到着した。



初日、成田空港に8時に集合し、シンガポール航空でシンガポール・チャンギ空港を経由してNZ・オークランドに到着した。

オークランドから約3時間でロトルアという町に到着した。そしてホストファミリーと対面しホームステイがスタートした。

翌日から Western Heights High School という高校で、現地の生徒と一緒に授業に出席した。藤嶺生のためには英会話の授業と現地の生徒が受ける授業の両方を受けた。



8日目は、映画「ロード・オブ・ザ・リング」の舞台となったホビットン村を訪れた。以前、映画を見たことがあったので、セットの凄さに魅了された。

トラクションだ。ソリで坂を下ることがこんなにも楽しいとは思わなかった。

5日目、タウポ湖、フカ滝とワイマング火山地帯を訪れた。日本では見られないような絶景でもとても美しい。ロトルアは温泉街としても有名で、



スカイタワーにも登り、都会であるオークランドの景色はロトルアとは違う良さがあった。14日間を振り返り、英語をこれまで以上に学ぼうと感じた。また現地校の生徒との交流が楽しく、貴重な思い出となった。

最後に、ロトルアから離れ、NZ最大の都市であるオークランドを訪れた。世界大学ランキングで京都大学より高いと言われるオークランド大の学生と交流し、街中を観光した。

街のシンボルであるスカイタワーにも登り、都会であるオークランドの景色はロトルアとは違う良さがあった。

14日間を振り返り、英語をこれまで以上に学ぼうと感じた。また現地校の生徒との交流が楽しく、貴重な思い出となった。



ミートパイというオーストラリアの郷土料理が最高に美味しかった。そこで対応してくれたお店の親切な店員さんも日本人でびっくりした（写真左「ミートパイ」）。

高一国際交流「ケアンズ現地校バディとの思い出」

7月31日から8月9日まで私たちは高1生25名は ST. AUGUSTINE'S COLLEGE (SAC) に滞在しました。

ケアンズの都市は大都会というより港町という雰囲気、海が近く長閑な感じのする都市でした。

気温は朝晩が涼しく、昼間は日差しが出るくらいです。日本とは季節が逆でした。

高2生松ヶ浦君 雲南省昆明市を訪問

今年2月に行われた湘南中国語スピーチコンテスト（同スピーチコンテスト実行会主催）で見事優勝した2年A組の松ヶ浦君が、優勝の副賞として、藤沢市の友好都市である雲南省昆明市を訪問した。

松ヶ浦君の訪問の様子には訪問地の一つである昆明西南聯大研究院附属学校のホームページ（写真左）で見ること



【共に夏日の約、再訪時国情道 (qq.com) より引用】

がでる。松ヶ浦君より昆明で体験した食文化について新聞部へコメントが届いたので紹介する。「中国の料理は大皿で提供され、多くの料理を取るために箸は日本のものよりも長く太いこれくらいのことに行く前から知っていたが、実際にその場面を見て、理由がわかった。中国では料理を多く出すことが客をもてなすことの一つであるとされている。大皿に盛る方が適している。昆明は同じアジアの東側に位置し、漢字



【川村】



程度日本と似ているところはあった。それでも日本と中国で形成される文化には多少違いがあるようだ。「松ヶ浦君の昆明の体験が伝わってきた。

なお新華社のネットニュースでも松ヶ浦君の訪問は紹介されている（本校HP参照。写真上は7月13日昆明市日本語スピーチコンテスト優秀者、黄沢巧さん（雲南大学3年生）楊婧涵さん（昆明文理学院2年生）が藤嶺藤沢を訪問時撮影。手前左が松ヶ浦君）。



初めてバディと対面するときは緊張しましたが、お互いにコミュニケーションを取ろうとし、最後の2日間は色々な話ができるようになりました。最後にはインスタ交換し今後にも連絡を取り合おうと思っています。

バディは学年が高2だったため授業内容はわからないことが多くありました。数学はできるとか、数学も難しかったですが、数学も難しかったです。

10日間、語学研修に参加してSAC生との出会い、ケアンズの大自然を知ることができ充実した時間を過ごすことができました。

最後に写真を紹介します。上が歓迎式後の記念写真でその下は対面したSAC生と始めはジャンケンをして楽しんだ様子です。左の写真はケアンズという熱帯雨林地域を訪れた日の写真です（滝の前での撮影、ロープウェイの中で撮影、帰りの鉄道を撮影）、その下が、実際に寝た、動いているコアラの写真です。

【長谷川】

マンガで英語を学ぶッ!

『ジョジョの奇妙な冒険』で英語を学ぶ』を紹介したい。原作者は荒木飛呂彦、監修はマーティ・フリードマン、翻訳・文章は北浦尚彦で集英社(2014年)から出版されている本だ。この本はタイトルの通り荒木先生により「週刊少年ジャンプ」ウルトラジャンプにて連載されている『ジョジョの奇妙な冒険』のセリフを英訳した



I, Jotaro Kujo, am labeled as the so-called "Bad Boy". I whip the asses of the guys I fight so bad that some are still laid up in the hospital. Some arrogant and brainless teachers at school that I taught MY lesson would never come back to school. Most of the time I leave a restaurant without paying when they serve crappy food that's not worth the price. But still, I do understand what disgusting "evil" is! "Evil" is the one who takes advantage of the weak and uses them only to fulfill his own interest! And much less, to a woman! That's what you did! Neither the victim nor any law can see your Stand or even know it exists... That's why... I'll be the judge of that!

英語を学ぶッ!」のタイトルが付けられている。第1章では作中のシーン、New Townの例文のように解説がされています。例えば承太郎の「...この空条承太郎は...いわゆる不良のレッテルを貼られている...」

就活「新聞記者」〜大学生生活

わたくしの藤嶺藤沢の中高生活を振り返ると新聞部の活動もその一つであった。大学生生活の中で、就職活動に悩んだわたくしは次のような文章を書いた。

新聞社は毎年応募者が多く倍率が高い狭き門である。選考フローも筆記と作文試験、面接が3回ある。日経は最終まで残ることができたが春の採用試験の結果は両社とも不採用であった。

内定がないまま気がついたら6月が過ぎていた。就職活動は売り手市場と呼ばれ、その時点での全国の内定獲得率は約9割に昇っていた。私の周囲でもほとんどの友人が内定を獲得していた。焦りと不安に駆られる。これまで記者職しか受けてこなかったが、背に腹は代えられないと、新聞以外の業界や新聞社でも記者以外の職種での選考を受け始めた。

新聞社は年が明けた1月には春の選考が始まる。第一ステップは書類選考だ。新聞社のほとんどは記者職とそれ以外の職種で選考枠が異なる。記者職で、読売、毎日、朝日、日経に応募した。そのうち書類選考に通ったの

8月4日ついに私は初の内定を得る。毎日新聞の販売エリアマネージャーという職種ではないものの憧れの

こんな俺にも吐き気をする「悪」はわかる! 悪とは、ためし自身のためだけに弱者を利用し踏みつける奴のことだ。ましてや女をきさまがやってるのはそれだ! アン、おめえの『スタンド』は被害者自身にも法律にも見えねえしわからねえ... だから俺が裁く! (英訳・左図参照) さらに例文の中の文法や単語、熟語の解説も入っており、完璧な英語の参考書でまるでミケラ

聞の元記者の方など様々な大人に相談した。中高新聞部の顧問にも意見を頂いた。アドバイスを頂いたほとんどの方がやりたいこと(神奈川新聞の記者職)の方がよいのではないかと、明言することはないものと、そのようなニュアンスであった。私の気持ちも神奈川新聞にかなり傾いている。それでもあと一歩毎日新聞というブランドを捨てる決心がつかない。

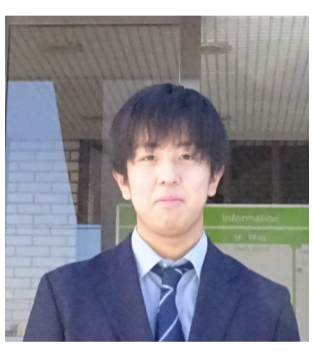
この文章の送られてきて1週間後、次のメッセージが矢澤先輩から送られてきた。

「先ほどやつと決心がつき、毎日新聞を辞退し、記者として生きていくことに決めました。神奈川新聞で精進し、力をつけます。藤嶺藤沢新聞部にも何か還元できたらと思うので、これからもよろしくお願いします。」

この文章の送られてきて1週間後、次のメッセージが矢澤先輩から送られてきた。

新入部員紹介

高校2年C組植竹隼也



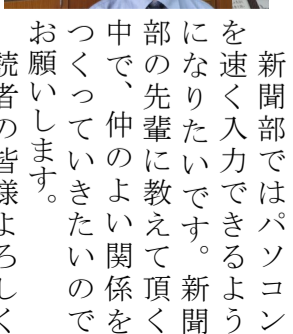
高校2年C組の植竹隼也です。文章を書くこと、写真のレイアウト、見出しなど工夫して読みやすい新聞を作りたいと思います。皆さま宜しくお願いいたします。

高校1年C組川村一惺



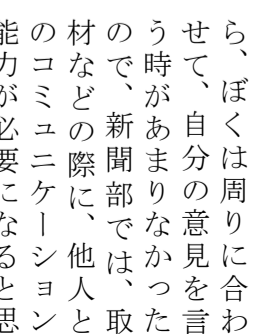
皆さま、こんにちは。高校1年C組の川村一惺です。これから新聞部で頑張りたいです。「大銀杏」を一生懸命作っていきますので、どうぞよろしくお願いたします。

中学1年1組石崎航成



新聞部ではパソコンを速く入力できるようにしたいです。新聞部の先輩に教えて頂く中で、仲のよい関係をつくっていきたくてお願いたします。読者の皆様よろしくお願いたします。

中学1年1組村瀬弘旭



みなさま こんにちは、新しく新聞部員になった村瀬弘旭(むらせひろあき)です。趣味は、パソコンのゲームです。ぼくが新聞部に入って何をしたいかという、自分に自信を持ってほしいです。昔か

部誌から「第93回藤嶺祭」杏

これまでの学校生活で色々あった僕にとっても最後の藤嶺祭。第93回の藤嶺祭は準備期間が3日、本番は1日だけでした。あつという間に終わってしまったが楽しかったです。3年ぶりの来校型開催ということもあって部員皆、気合が入っていました。新聞部は、トランプや木片を積んだタワーは予定より規模の小さいものになりました。限界を知りました。ただ皆のおかげで何度も訪れたピッチも乗り越え、タワーを建てることできました。

新聞「大銀杏」について「歴史があつて面白い、前より今のほうが見やすくなっている」など嬉しい言葉も頂きました。一方で部活企画で忙しく見に行き楽しめたのは吹奏楽部の演奏と喉自慢大会だけでした。吹奏楽部の演奏は、部員の日々の努力と音楽が好きという想いが伝わってきて素敵です。喉自慢大会は15分でした。喉自慢大会は押尾先生の素晴らしい進行、気合の入った挑戦者6名、率直に審査をなさる先生方で成り立っていました。仮装が面白く笑ってしまいました。また知らない歌ばかりだったので勉強になりました。

「星野源」パワー

今年高3の私は1月に学校が終わった後、星野源さんのファンクラブ「YELLOW PASS」限定のイベント「Gen Hoshino presents "Re-assembly"」に行きました。受験が本格化している中、パワーをもらいに行ってきたのである。

披露された「喜劇」という曲の映像が3月に公開された。その作品で実感したことを記事にしたいと思う。シャボン玉と照明の効果、源さんの歌詞をはっきりと味わう歌声と世界観に合わせた動き、ファンの方々のバラ

バラな、自由なダンスでその空間は成り立っていた。写真や映像を見るだけで十分に伝わってくるのだ。源さんの曲で私が一番好きな曲は「喜劇」だ。その思いはエッセイである『いのちの車窓から』や雑誌「ダ・ヴィンチ」連載「食卓」を読んだり、MVやこのライブ映像を観て余計に想いは強くなった。どんな日も悲しみや喜びを分け合い、話し、笑い、綺麗な景色を見たり、美味しいものを食べたりする。相手がいるって、凄いいことだと思ふ。これまで数えきれないくらい起きた「淡い呪い」ら自分にとっての「光」を見つけた旅。

それがこれからの人生だと思っている。明日地震が来たりして、何が起きるか分からないが、喜びを噛み締める為に、今日を生きているんだと思ふ。これから源さんの映像を見続け、応援し、私の人生を面白いものにした。旅を続けていくのだ。ライブイベントは「また、笑顔で会いましょう!」と言うまで感動の連続だった。どんな形でも良いから、最高のものを自分自身で表現できる日が楽しみだ。【高橋新】

編集後記 お読み頂き有難うございます。部員の多くが高3生ですが新メンバーを加え「大銀杏」を作っています。